

下関市公共施設マネジメント推進委員会（第3回） 議事録（要旨）

日時：平成27年11月19日（木） 14：00～16：00

場所：本庁舎5階大会議室A

参加者：（委員会）杉浦会長、齊藤副会長、永尾委員、山西委員、（松原委員は欠席）
（事務局）松崎総務部長、小野総務部理事、
内田行政管理課長、笹野行政管理課主幹、
藤井行政管理課長補佐、魚住行政管理課主任
（傍聴者）1名

【内容】

はじめに

会 長）松原委員が欠席となったが、委員の過半数が出席し、規則第5条の開会の条件を満たしている為、開会とする。
前回までの委員会の中で委員から出た意見を踏まえ、答申案を作成している。本日はこれを基に委員会としての意見をまとめたい。

次第1. 「公共施設等総合管理計画答申書案について」

(1) 全体意見

ア 計画の必要性及び重要性について

イ 市民との協働について

事務局）資料に沿って説明。

委 員）市民との協働についての記述が「まちづくり協議会」とのみ対話を図れば良いように受けとれる。前回申し上げたPPPプラットフォームのような民間との対話を図っていく必要がある。「まちづくり協議会」だけでなく幅広く市民との協働を図るような記述にした方が良い。「～まちづくり協議会など市民団体との対話を～」といった市民との協働という意味を幅広く捉えられる表現にした方が良いと思う。

委 員）「まちづくり協議会」との協働となってくると、「まちづくり協議会」は地域を興そうという動きであり、新たに施設を造ってくれという意見もでるだろう。その一方では、不要な公共施設を縮減していかないといけないとなる。相容れないのではないかと考える。

→「住民自治によるまちづくり」という新しい行政運営に取り組んでいる。これまでのやり方を続ければ市が破綻する恐れがある中で、今やろうとしているのは単なる削減でなく、新たなまちづくりであり、そ

の中で新しい公共施設の要望もあろうかとは思ふ。新しい施設をつくるなら、そこに色々な施設を集約していく。全体としてはコンパクトになるが機能として良くなるという形で、「まちづくり協議会」からも意見を頂き、その他の民間の視点も入れていくというのは大事であると考えている。PFI・PPPという手法も重要であろうと考えており、そういう取り組みを検討していく必要があると考える。(事務局)

会 長)「協議会等」もしくは「協議会をはじめとした」という表現ではどうか。

委 員)「住民自治によるまちづくり」は完全な形で発足しておらず、足並みもそろっていない。こういう形も検討できるという表現にした方が良いかと思う。「例えば、下関市ではまちづくり協議会～」という表現にした方が良いかと思う。

会 長)今の部分は修正させていただくとして、他に意見は。

→意見なし。(委員)

(2) 個別意見

ア 計画期間について

事務局)資料に沿って説明。(計画期間 20 年間)

会 長)計画期間は 20 年間ということでしたが、何か意見は。

委 員)いきなり 20 年間で短期という表現には違和感がある。全国的に 30～50 年間の計画という自治体もあるなかで、20 年間は短期だという表記にすべきでは。

→頂いた意見を参考に表現を修正させて頂く。(事務局)

会 長)今の部分は修正させていただくとして、他に意見はないか。

→意見なし。(委員)

イ 基本目標について

事務局)資料に沿って説明。(延床面積を 30%以上縮減)

会 長) 前回までに色々と意見が出たところであるが、何か意見は。

委 員) 前回のときに 30%以上の縮減を早期に達成し、最終的には中核市平均の市民 1 人当たりの延床面積「3.3 m²」を目指すということを加えるという結論になったと理解していたのだが。

会 長) 結論となったかは曖昧なところだが、長期的には更なる縮減を目指すということだった。

→今回は 30%以上の縮減としているが、今後、計画を進行していく中で見直ししていき、その中で再度検討するという表現としたい。(事務局)

委 員) 30%以上の縮減について、現在どれくらい縮減できるのか目途がついていないのなら、30%以上の縮減の根拠が不明瞭であるので、中核市平均を最終目標にしたかどうかということになったと思っている。最終的に中核市平均を目指すという表記が欲しい。「中核市平均を目指してチャレンジする」という出来ないかもしれないけど、やってみるという前向きな表現が欲しい。

→前回の意見を受けて、「中核市平均を達成するには、公共施設延床面積の 55%以上を縮減しないとイケない。」という表現を盛り込んでいる。30%以上の縮減を最低ラインの目標とし、中核市平均にむけてチャレンジするというニュアンスの表現を盛り込みたい(事務局)

委 員) 前回も言ったが 30%以上の縮減について、どのくらい縮減できるか積み上げで試算しておくべきだと考えるがどう考えているのか。

→現時点では行っていない。ただ積み上げても、30%以上の縮減という数値には到底達しないと考えている。数値目標として 30%以上の縮減を先に設定して、それを達成するよう努力するように考えている。(事務局)

会 長) 私は、財政及び人口の面からの 30%以上の縮減というのはそれなりの根拠があると考えている。答申に含めるかは別として、どれくらい縮減できるのかを施設全てに○△×をつけて積み上げていくという作業は必要だと考えている。

→次のステップで取り組んでいくということでご理解頂きたい。(事務局)

委員)「施設用途別のマネジメントの方針について」の表記「『30%以上の縮減』は、容易な取組みではなく、これを達成するためには、より具体的な取組みを方針として掲げ、」は基本目標にも入れて欲しい。

会長)基本目標にもこのニュアンスをいれるということでしょうか。

→今後の適正配置の計画等の中での取組みということによければ調整したい。(事務局)

会長)ではそれをお願いしたい。

→意見なし。(委員)

ウ 基本的な方針について

事務局)資料に沿って説明。

委員)プラットフォームを研究するという段階ではない。設置を検討すべきという表現にするべきと考える。今からどんどん民間の活力を導入していかないといけない。本来は民間から提案していくべきだが、下関市はまずそういう空気をつくっていかないといけない。行政が民間を引っ張っていくところが欲しい。

→本来は民間活力とは民間が力をもっていなければいけないと考えるが、ここは下関市の方からも民間に働きかけるという表現でよろしいか。(事務局)

会長)設置を検討すべき、と行政が民間を引っ張っていくような要素を盛り込むということとしたい。

エ 施設用途別のマネジメント方針について

事務局)資料に沿って説明。

委員)ボートレース事業は、前回の会議では「収益があがらない場合は廃止を検討すべきである。」ではなく、「収益があがらなくなることも想定されるから、あらかじめ民間への移管を検討すべき」という意見だったと理解して

いるが。

→ボートレース事業をいつまで続けるのか。収益を生まない場合はどうするのか。というご意見を受けてそう表現している。(事務局)

委員) 公共施設としてボートレース場はどうかと思っているが、収益があがるのなら仕方ないが、収益が出なくなったら廃止して欲しいと考えている。ということで話をした。私はこの表現で良いと思う。

→総合管理計画は個別の事案をあげる段階ではないと考えるため、固有名詞を出すのではなく収益を目的とした事業といった表現としたい。(事務局)

会長) 固有名詞を外し、収益を目的としたという表現とすることでよろしいか。

→意見なし。(委員)

オ 本計画の管理の仕組み

事務局) 資料に沿って説明。

会長) 意見はないか。

→意見なし。(委員)

計画の実施にあたっての今後の留意点

(1) 計画期間について

(2) 基本目標について

(3) 推進体制について

(4) 市職員の育成について

(5) その他

事務局) 資料に沿って説明。

委員) 「20年間と比較的長期間である」という表現は、先程の記述と合わない。

→ご指摘のとおりなので修正する。その他できる限り前倒しでという表現を入れることとしたい。(事務局)

会長) 修正し、「前倒しを」という記述を入れるということで。

委員) 外部アドバイザーを入れるという動きが必要ではないか。組織のしごらみがあるので内部の人間では調整しきれない。そういったことから他市では外部アドバイザーを活用していると思われるので是非検討してほしい。

→検討しているところであるので、推進体制についてのところに反映したい。(事務局)

まとめ

事務局) 資料に沿って説明。

会長) これまでの段階で修正となった点は、まとめの表記も併せて修正していくということをお願いしたい。

委員) まとめであるので、「3.3 m²」といった細かい数字は必要ないと思う。「全国的な平均を大きく上回る」という表現だけでよいのではないか。

→整理したい。(事務局)

次第2.「答申について」

会長) 事務局との最終調整は私に一任ということで了承いただき、市長に答申したい。

次第3.「その他」

事務局) 今後は市長に答申した後、12月の議会に対し中間報告を行う予定としている。12月後半からは1箇月間の期間でパブリックコメントにより市民の意見を伺い、2月中に計画を完成させ、3月の議会で完成の報告を予定している。